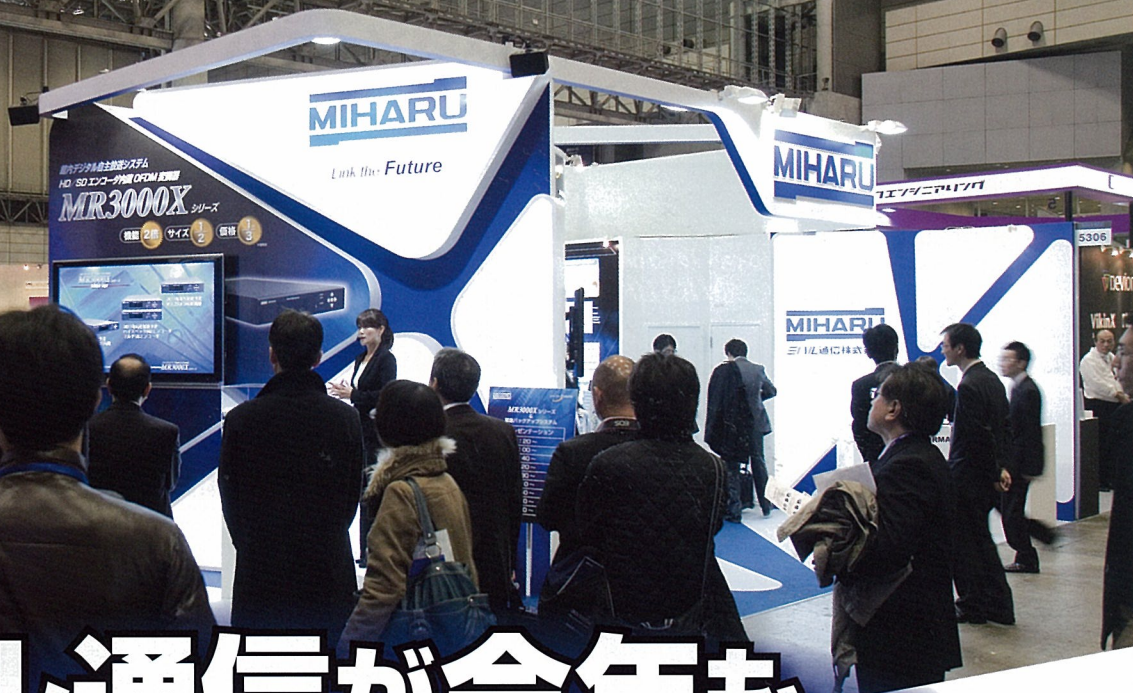


昨年のInter BEE 2010のミハル通信ブースで行われたプレゼンは、集まった来場者が通路に溢れるほど賑わった(写真)。今年の展示も注目されそうだ。



ミハル通信が今年も Inter BEEに大型出展

幅広い分野でデモ展示

- 館内デジタル自主放送
- ケーブルテレビFTTH
- 放送局緊急バックアップ
- エリアワンセグなど

ミハル通信は今年もInter BEE 2011(11月16日(水)～18日(金)、幕張メッセで開催)に大型の展示ブースで出展する。出展内容は幅広い。話題の館内デジタル自主放送システム「MRシリーズ」は5機種のリラインナップが勢揃いする。ケーブルテレビ事業者向けにはHFCを段階的にFTTH化するシステムを提案する。今年のケーブルショーはセミナー中心のイベントだったこともあり、Inter BEEで本格的な展示を行う。キー局を含む放送局の導入、引き合いが伸びている「緊急バックアップ装置」、日テレと共同開発したチャンネルチェッカー「見張るチャン」も出展する。今年も見逃せないミハル通信ブースの見所を紹介する。

(取材・文:渡辺 元・本誌編集部、写真:石曾根理倫)

館内デジタル自主放送システム 「MRシリーズ」5機種勢揃い

ミハル通信は昨年のInter BEE 2010で、館内デジタル自主放送システム(OFDM変調器)の最新シリーズ「MRシリーズ」の第1弾製品「MR3000X」を発表した。キャッチフレーズは「機能2倍、サイズ1/2、価格1/3」。「MRシリーズ」の登場は市場に大きな反響を呼んだ。

それから1年後のInter BEE 2011。ミハル通信はさらに4機種を加え、「MRシリーズ」のフルラインナップ5機種を一堂にデモ展示する。5機種は、①HD/SD対応、②ハイスpekHD、③多チャンネルSD、④IP伝送、⑤スカパー!HD対応。館内デジタル自主放送システムはさまざまな用途で使われるが、この5機種の機能で、ほとんどのニーズに対応できる。最強のラインナップが揃った